「とやま新時代」を創る

次なる挑戦!!

永森 直人

富山県議会通信

Challenge spirit Vol.10
平成27年7月号
(H27.7発行)

ご挨拶

去る4月に執り行われました富山県議会議員選挙におきましては、2期目の当選を果たさせていただくことができました。また県議会及び自民党県連の役職改選によりまして、県議会におきましては教育警務常任委員長を、自民党富山県支部連合会においては青年局長の役職を拝命しました。これも地域の皆様方のご指導の賜物であります。市民の皆様の負託にこたえることができますように、引き続き全力で頑張ってまいります。

自民党県連大会

北陸新幹線が開業し、富山県の地域力やブランド力は確実に高まっており、大きなチャンスを迎えているといえます。

一方では、これからの人口減少社会・高齢化の時代をいかに乗り切るかという大きな課題にも直面しております。

富山県そして射水市の持つ大きな潜在能力を潜在能力で終わらせることなく、しっかりと開花させ、これからの困難な時代にあっても、この素晴らしい故郷を未来にしっかりと継承していく大きな責任を私たちは背負っています。

その先頭に立って、今後ともしっかりと頑張っていきたいと考えておりますので、引き続き皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

富山県議会　教育警務常任委員会

永森直人の「とやま新時代ビジョン」

●富山の個性を生かした経済基盤の確立

新たに開通した北陸新幹線の開業、成長を続ける富山新港などの交通インフラをさらに伸ばし、日本海側の拠点都市としての地位を確かなものとし、県民の暮らしを支える経済基盤を確立します。

●富山から発信！新しい地方都市のかたち

地方にこそ日本の真の素晴らしさがあります。豊かな自然、農業など地域に根差した文化を守り、育てていきます。

●安心な地域社会の実現

人口減少、少子化、高齢化という時代の中で安心して暮らせる医療介護の環境整備や子育て支援策に取り組みます。

富山県議会議員 永 森 直 人（ながもりなおと）

〈 略歴 〉
昭和50年1月20日生まれ（40歳）
高岡南高校、東京都立大経済学部卒業
住　　所　射水市三ケ
家　　族　妻、長男、次男（ともに小学生）と4人暮らし

平成9年4月　富山県庁入庁
ロシア・ウラジオストク派遣留学、広報課、
高齢福祉課主任などで各種施策に取り組む
平成22年9月富山県庁退職
平成23年4月富山県議会議員に初当選（現在2期目）

〈 主な役職 〉
・富山県議会
教育警務常任委員長
・自民党富山県連 青年局長
・自由民主党小杉連合支部
幹事長
・射水市消防団三ケ分団長
・射水市「歴史と文化の薫るまちづくり事業」
実行委員長
・旧北陸道アートin小杉実行委員長
・NPO法人日本応急手当普及員協会顧問
・小杉ライオンズクラブ所属

永森直人県議会通信 Vol.10（H27.7月発行）-発行-　自民党富山県議会議員会　永森 直人

〒939-0306 射水市手崎363-1　TEL.0766-55-3533　FAX.0766-55-3577
E-mail nagamori-naoto@vivid.ocn.ne.jp

平成27年6月定例県議会において一般質問に登壇しました

あいの風とやま鉄道等について

問▶ 「あいの風とやま鉄道」の混雑解消にどのように取り組むのか。

答▶ 「あいの風とやま鉄道」では、利用状況を見ながら、必要に応じ車両編成を見直すこととしているほか、6月11日には各列車の利用状況調査を実施したところであり、今後の車両編成やダイヤ改正に活用するとしている。
県としても、保有車両を最大限活用した車両編成の工夫や利用者への乗車誘導等の対応を求めてきたところであり、引き続き必要な助言などを行い、連携して取り組んでいく。

問▶ 「あいの風とやま鉄道」の駅舎等の余剰スペースを有効活用するよう、県としても積極的に働きかけを行う必要があると考えるがどうか。

答▶ 「あいの風とやま鉄道」においては、新たな事業者の誘致に努力しているほか、沿線の市町に駅周辺のにぎわいづくりなどのため利活用を働きかけているところである。
また、県としてもモデル的な取り組みに対しては補助制度を設け支援することとしている。
駅舎は、鉄道利用者のみならず地域住民が気軽に立ち寄れる場所であり、駅周辺はまちづくりの拠点であることから、県としても積極的な利活用を働きかける。

問▶ 富山駅高架下（※下記参照）について今後どのように活用すべきと考えているのか？その有効活用は、鉄道利用の促進のみならず、鉄道会社の貴重な収入源でもある。

答▶ 先般、富山駅高架下に、さらに充実したほうがよいと思われる店舗やサービスについてアンケート調査を実施した。
例えば寿司やカフェなど飲食店の充実とか、本屋の設置、観光案内所の充実といったようなことが多く出ている。今後、もう一回ニーズ調査を実施したいと考えている。
富山駅の在来線高架下の施設が新幹線高架下の施設と一体となり連携して、富山県の特色や強みを生かした店舗となり、にぎわい空間の創出が図られるよう、さらに検討を進める。

問▶ 踏切道の拡幅整備の促進に向け、県として、今後どのように取り組むのか？

答▶ 拡幅が必要な踏切は、踏切内の車道幅員が前後の道路に比べ1メートル以上狭い踏切とされている。
平成17年度に国土交通省が実施した総点検では、県管理道路において拡幅が必要な踏切は15カ所あった。このうち5カ所が、国から緊急対策踏切として指定され踏切道調整連絡会議で協議の上、昨年度までに、この5カ所全ての整備を終えた。
県としては、射水市内の小島踏切など、対策が実施されていない踏切10カ所についても順次整備を行いたいと考えており努力していく。

富山高岡広域都市計画について

問▶ 市街化区域編入に当たっての方針はどうなっているのか？

答▶ 平成33年までの市街化区域拡大可能枠は、区域全体で約60ヘクタールである。
一方、富山、高岡、射水の3市からは合計26カ所、531ヘクタールと多くの要望があるため、開発計画の熟度が高まったものから順次行っていく。
富山高岡広域都市計画区域内の3市がバランスよく発展して、ひいては県全体の発展につながるように取り組んでいくことが重要だと考えている。

富山湾の魅力発信について

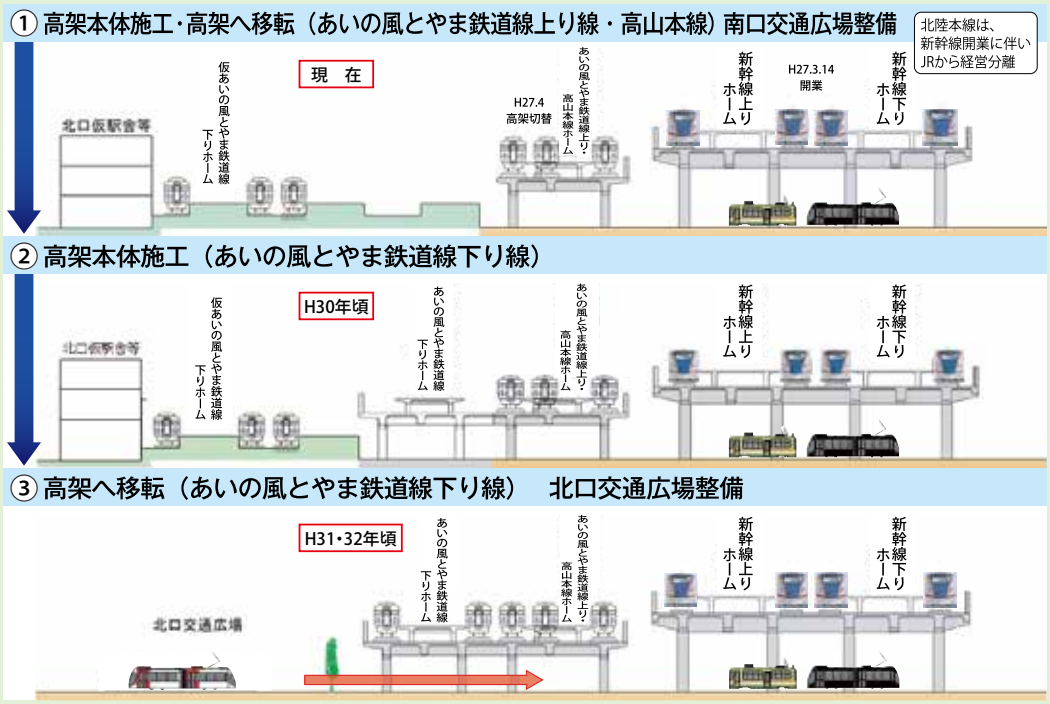
問▶ 伏木富山港への国際フェリー航路、国内フェリー航路の新規誘致に取り組む必要があると考えるが、どうか。特に、本県とゆかりの深い北海道からのフェリー航路誘致は検討に値するのではないか。

答▶ 県としては、まずは貨物のみを輸送する国際RORO船について、現在の月5便を増便することや、週3回程度の不定期便の定期化に向けて貨物量の増大に努めている。
加えて、国内RORO船について、敦賀－苫小牧間の定期船を伏木富山港経由にしたいと考えており貨物の集荷促進を図ることとしている。
北海道とのフェリー航路については、現在、日本海側で運航されている4航路の一部を活用することを含め、貨物、旅客の確保策や採算性等について調査研究する。

農業問題について

問▶ 政府は2018年産からを目途に都道府県ごとのコメの生産数量目標の配分をやめる予定としているが、県として農家の所得確保にどのように取り組むのか。

答▶ 県としては、農家の所得確保に向けた水田フル活用による本県独自の対策が大変重要と考えている。
また、今年度からとやま型農業成長戦略チャレンジ支援事業により、経営を発展させて所得増大に意欲的にチャレンジする農業経営体に対し、専門家による経営分析やマーケティング等のソフト面と、規模拡大に取り組むメガファームや経営の複合化に取り組む集落営農の機械整備等のハード面を総合的に支援することとしている。
一方で、国に対して、米の需給の安定を図る仕組みや米価下落時のセーフティネットを構築することなど、引き続き働きかけていく。

※富山駅付近連続立体交差事業

「あいの風とやま鉄道」富山駅は、現在、上り線のみが高架化された状態であり未完成な状態となっています。今後、下り線の高架化が進められ、高架化完了後は、高架下を商業施設などとして活用することになっています。